

秋田市公立大学法人評価委員会 平成24年度第2回 議事要旨

日 時 平成25年1月17日(木) 10:00～正午

会 場 秋田市役所会議兼応接室

出席者 【委員】 野田 敏明 委員  
                  鑑 隆千代 委員  
                  佐野 元彦 委員  
                  清水 誠一 委員  
                  堀井 照重 委員                   以上5名  
【市 側】 【大学設置準備室職員】  
                  堀井室長、近藤参事、北嶋副参事、小川主席主査、  
                  熊地主席主査、加藤主査、水澤主査、大内主査、鈴木主事、  
                  佐藤主事

配付資料 1 公立大学法人秋田公立美術大学中期目標(修正案)【資料1-1】  
                  2 中期目標(素案)に対する意見と対応【資料1-2】  
                  3 中期計画の記載事項について【資料2-1】  
                  4 中期目標と中期計画について【資料2-2】

議事経緯

開 会	
事務局	ただいまから「秋田市公立大学法人評価委員会」を開会する。  5名の委員のご出席をいただいている。 会議の進行を、委員長にお願いします。
【議事(1) 中期目標について】	
事務局	(資料1-1、1-2に基づき説明)
委員長	修正されたところだけではなくそれ以外も含めて、1ページの「基本的な目標」から、意見をお願いします。
委 員	修正案は基本的にはバランスが取れていて分かりやすいという印象である。そのうえで確認したい。 前段の文章の最初の2段落とその下の4つの基本理念がイコールであるのか、3段落に「これらを踏まえ、以下の4つの大学の基本理念を達成すること」とあるので、基本理念よりも上位のものが、それにより基本理念が導かれて基本的な目標になるのか。 最初の2段落が最高位であり、それを4つに箇条書きしてそれらを達成することを目標とするのか、そうした流れの方が概念的には分かりやすいと思われる。

事務局 前段の文章は設置の趣旨あるいは基本構想から引用しているが、こういったことに基づいて基本理念を定めるとしているので、前段の文章がどちらかというとな上位的な概念になると思われる。

委員長 「1から4を基本理念として、以下の基本目標を作成する。」というような直接的な表現が分かりやすいと思われる。

事務局 実際の理念はもっと細かく設置の趣旨あるいは基本構想にあり、これを実現することが大学にとって1番の目標である。前段の文章は、上位というか、6年間の中期目標として指示するとき、理念の内容を概括的に書いたもので、こういう大学を目指し、4つの基本理念を達成してください、という理論展開になっている。  
4つの基本理念を箇条書きにしたのは、基本的な目標で理念を全て書くのはなじまなかったためである。

委員 K美術工芸大学では前文という形でおいている。基本的な目標の中で、4つの基本理念が下位であるという印象をもたらしているのが、「踏まえ」という文言ではないか。  
理念を補足するような文章になっているので、前段の文章の方が上位という考え方をすると、厳しいものが出てくる。

事務局 前文で概略を書く大学もあるが、事務局としては、具体的なものを踏まえた上で理念に入っていくという組立をしている。

委員 「これらを踏まえ」があるので、上と下とが別物に見える。

委員 前段の文章の2行目の「現代日本に合った価値観」という表現を検討した方がよいと思われる。

事務局 理念に書いているが、いろいろな価値観がある中で今の日本はどうかという価値観で再構成するという意味である。

委員 「現代日本に合った」の部分の「合った」という文言を変えた方がよいと思われる。

事務局 最終の目的は、新しい芸術的価値を生み出し世界に発信することであり、「現代日本に合った価値観」を前提にして、こういうことを行っていくという意味で、「現代日本に合った」という言葉を使っている。

委員 この価値観は既に存在するのか、それともこれから現代日本に合うように作っていくものなのか。

事務局 どちらの意味にも取れるということである。

委員 どちらもということか。

事務局 2年後でもその時はやはり「現代」の日本であると、捉えていくことにしている。

委員 この価値観は、大学設立の大きな動機ではないか。この大学が作る価値観の提示のような感じがする。

委員 現代美術を非常に意識している。

委員 2年後でも10年後でもその時は「現代」と言えるかもしれないが、ここでは「将来」とした方がよいのではないか。  
2行目と4行目で「現代」を強調しているが、4行目は「未来、将来」に向けての「芸術・文化の発展に貢献する」ということではないか。

委員 「日本」に限定しなくてもよいのではないか。

事務局 現代芸術を新大学が発信していく以上、日本からの発信になるという意味での「日本」と捉えていただきたい。

委員 「現代日本に合った価値観」の「合った」を別の言葉に変えるとどうか。

委員 「新しい価値観から生み出される芸術的価値を世界へ向けて発信する」というのはどうか。

委員 「現代日本の価値観から生み出される新しい芸術」というのはどうか。

委員長 秋田市としては、「現代日本に合った価値観のもと」という文言は重要と考えているという理解でよろしいか。

事務局 文部科学省に提出した申請書の中に「現代芸術への貢献」という項目があるが、その中の一部分を取り出している。  
中期目標のためのオリジナルではなく、ある程度公にしている文章の一部を使っていると理解していただきたい。

委員 「秋田公立美術大学設置基本構想」の3ページの「2 秋田公立美術大学の概要」の(1)のアの「現代日本に合った価値観に再構成するとともに、新しい芸術的価値を生み出し、発信することに積極的に挑戦する」という部分か。

事務局 その部分と、文部科学省に提出した書類に別項目があり、似たような表現がある。

委員 「現代日本に合った価値観に再構成する」とこと、「現代日本に合った価値観のもと、新しい芸術的価値を作り出し」ていく考え方とは異なる。

委員 「現代日本に合った価値観のもと」の「もと」という文言は、前後関係

をあいまいにする。「価値観のもと」という文言は、価値観が既に存在していて何かを行うという意味になり、価値観を作り上げていくこととは意味が異なると思う。

委員

「もと」を変えることで文章のつながりが出てくる。  
基本構想の3ページの「現代日本に合った価値観に再構成するとともに」という部分の「再構成」というのは、生み出していくことであり、「現代日本に合った価値観のもと」の意味とは少し異なっている。  
「合った」という表現を変えてもよいかと思われる。

委員長

「現代日本に合った価値観のもと」と10行目の「これらを踏まえ」の表現を再検討し、次回の委員会で結論を出していただきたい。  
2ページから5ページまでについて意見をお願いする。

委員

3ページのファカルティ・ディベロップメントは、教員に対する組織的な取組のようだが、スタッフ・ディベロップメントは職員に対する取組なのか、事務職員に対する取組なのか。  
職員と事務職員をどのように区別して判断するのがよく分からない。

事務局

ファカルティ・ディベロップメントは教員を対象にした組織的な取組であり、スタッフ・ディベロップメントは教員以外の職員を指すように使っている。  
助手を含めた教員と事務職員がいて、両方を合わせて教職員と表現している。  
別々のときには教員、それに対して事務職員という表現に整理して、訂正をした。

委員

職員の中には、事務職員と教員も含んでさらにその他の職員がいるということか。

委員

3ページの(3)の「ウ」の「教育活動の評価および改善に関する目標」に書かれている「教育力」の前に、「教員の」を入れた方がよいのではないか。ファカルティ・ディベロップメントも教員を対象にしている。

委員

4ページの3の(1)に書かれている「地域の歴史文化に根ざした特色ある課題へ取り組む」の「課題」とは何か。

事務局

「課題」は広義の意味で捉えている。  
新大学でフィールドワークを行うと特色とか特徴が現れ出てくると思うが、それを芸術として変化させていく、昇華させていくことを「課題」と捉えている。

委員

説明があればよいが、活字として読み込む場合、「課題」の意味を理解できるのか。  
歴史文化に根ざした事象的要素があって研究していくという意味合いと

思うが、「課題」のイメージをどう解消するのか。

一般の「課題」という言葉の使われ方は、必ずしもよいイメージではない。

事務局 「テーマ」ではどうか。

委員 「テーマ」の方がよいのでは。

委員 学問分野の中で違和感がない表現であり、一つの流れであるならば、こだわる必要もないと思う。

「課題へ取り組む」というより「課題に取り組む」の方がよい。

委員長 6ページから8ページまでについて、意見を願います。

委員 6ページの1の(2)の「事務職員・教員の連携強化に関する目標」のところで、「協働して業務にあたる制度を構築する」というのは、少し具体的な形で書いているが、これは何かをイメージしているのか。

事務局 イメージ的には連携というより協働ということだが、例えば学内委員会  
の委員として事務職員も意見を言うことができるという、そのようなイメージである。

委員 「制度を構築する」という表現は、強い表現であると思う。  
体制を整備するのが目標で、制度構築は計画で出てくると思っていたが。

事務局 システムティックなことをしてほしいということで整理したが、印象として強いのであれば少し弱めるのは構わない。

委員長 目的がはっきりしているのであればよいのではないか。

委員 それならばよい。具体的な目標のイメージがないのであれば、「制度の構築」とするのはミスリーディングになってしまうかもしれないが。

委員長 全体を通して意見があればお願いしたい。

委員 5ページの削除した項目の3の(3)「研究活動の評価および評価結果を研究の質の向上に結びつける体制の整備に関する目標」であるが、教員の評価について人事のところでもとめることはよいと思うが、ここを削除することで人事評価とは別のレベルでの研究の評価がなくなる気もする。

7ページの第5の「自己点検・評価および情報の提供に関する目標」のところで包含されているのかもしれないが、(3)について議論や意見があったのか。

事務局 研究の水準については4ページの3の(1)「研究水準および研究の成果等に関する目標」に記載しているが、高い水準を維持するという部分は

記載されていないので、( 1 )に入れることはできると思う。

委員 4 ページの 3 の ( 1 ) に、項目を増やすということか。

委員 ( 1 ) に盛り込むのはよいと思う。

事務局 研究を重視する教員は、研究評価が高ければ学内運営には全然関わらなくてよいのか。最近では社会貢献のランキングが出てきたりしているので、研究だけではなく、大きな面でもっと評価をすべきではないかとの意見があったので、5 ページの 3 の ( 3 ) に記載していたものである。

委員長 今までの意見を整理すると、1 ページでは「現代日本に合った価値観のもと」と「これらを踏まえ」が議論になった。

4 ページの「歴史文化に根ざした特色ある課題へ取り組む」の「課題」について意見があり、5 ページの 3 で削除した ( 3 ) の研究活動の評価を、( 1 ) に加えることの提案があった。

6 ページの第 3 の 1 の「制度を構築する」の「構築」については、説明で理解できたと思われる。

以上を踏まえて検討していただきたい。

委員 最終的に評価委員会として出す意見というのは、抽象度の高い意見のことか、それとも、「これがふさわしいと思う」という意見のことなのか。

委員長 市に文書で意見を述べるということになると思う。  
議論をした意見が反映されて、原案を可とするという形がよいと思われる。

委員 最終的な案は委員会の意見も反映されたものになるということか。

委員長 これまでも意見を踏まえて素案ができたが、このまま市が考え方を換えられないならば、評価委員会として意見を述べるという形になる。

## 【議事 (2) 中期計画について】

事務局 ( 資料 2 - 1、2 - 2 に基づき説明 )

委員長 中期計画は大学が作り、設置者である秋田市が認可するものであり、その際に評価委員会が意見を述べる。

資料 2 - 1 に記載されているように、目標と連動した計画になっているか、計画をもっと緻密に表現してほしいということなどが出てくると思うが、今の段階では、事前に意見交換をしておき、素案ができたときに了承できるようにしたいと考えている。

項目として何か付け加えることがあれば、今の段階で述べていただきたい。

資料 2 - 1 の「10 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項」の 4 つの項目は、秋田市が作るという理解でよろしいか。

- 事務局                    そのとおりである。  
                              「業務運営並びに財務および会計に関する規則」で、3月末までに秋田市で規則を制定する予定である。その中で中期計画に記載する業務運営に関する事項としてこの4つの項目を規定する予定である。
- 委員                        K美術工芸大学の資料では何年度というように達成年度が入っているが、秋田公立美術大学についても、6年間のいつ頃というスケジュールを入れる予定なのか。
- 事務局                    6年間の中ではなく早めにした方がよいのであれば、年度や数字が入る可能性もある。
- 委員                        それを集めると、単年度の年度計画になるのか。
- 委員長                    目標や年度計画に具体的な数字を出している大学が多いが、評価委員会としては、数字があると、達成しているかいないかが明らかで、やりやすいこともある。具体的な数字があると大学も頑張ることができるのではないか。  
                              どの項目を数字で表現するのか、年度計画の方で数字を出すのか、という問題があると思うが、具体的に作成するときに、その数値目標が適切かどうかは難しい。  
                              低い数値を入れると非常に高い評価になるとは思うが、数値目標の設定レベルをどうするかというのは、大学と話し合うべきであると思う。
- 委員                        数値は物差しの一つであり、これまで大学になかったようなあらゆるものを数値化する工夫をしてもらいたい。数値で評価することにより言いづらいことも話せるようになる。  
                              厳しいが、目標の数値を出すためには何をすればよいのか、そのための手段を考えてもらいたい。
- 委員長                    数字の怖いところは、例えば学生の評価が高い教員が実際に質が高いとは限らないことだ。  
                              学生に甘くて迎合するような教員が増えると、大学そのものの教育の改善につながらない。  
                              数値はあった方がよいが、数値だけで評価するのも難しい。それを踏まえて評価しなければならない。  
                              数値はよいと思うが、それだけに頼るのはよくない。
- 委員                        評価する側が、数値は一面的なもので評価の全てではないということをお前提とした上で、数値に対して努力するという姿勢をお願いしたい。
- 委員                        非常に難しいと思うが、客観的に見ることができるものが必要である。
- 委員                        大学ができると認証評価機関の評価を受けることになると思うが、認証評価機関の評価は数値を求められるのか。

認証評価機関の評価と年度計画、中期計画の評価を共通化しておいた方がよいと思われる。

委員長 項目は認証評価機関のものほとんど連動している。認証評価機関が評価委員会の評価方法をみることもあるので、評価委員会もきちんと評価しなければならない。

委員 認証評価機関はどこで設置しているのか。文部科学省か。

委員長 文部科学省が評価機関の認証をしている。

委員 評価の頻度はどれくらいなのか。

委員長 7年に1回である。

委員 大学ができてから7年目に評価するのか。

委員長 どの時点で評価してもらうかは大学の任意であるが、ある程度実績がないと、評価ができない。

なお、同じような評価基準で評価すると、どの大学も同じようになるデメリットがあるので、近年は大学の特色を評価する方向に変わりつつあると思われる。

委員 認証評価機関が評価したものに対して、文部科学省が何らかの是正措置を取るのか。最終的にどういう形になるのか。

評価を受け止めて頑張る、さらに向上するということがか。

委員長 認証評価機関の評価内容は原則ホームページ等で公開することになっている。それで解決策に向かうという考え方であるが、そのプロセス自体を変えていこうという流れになっているのが現状と思う。

第三者的に言えば、中期目標、中期計画、年度計画に基づいて、大学が自主的に意欲を持って運営をしないといけない。

改善すべきところははっきりと言い、よい部分はほめることが必要である。

委員 秋田公立美術大学の特色は何なのか、少し分かりづらい部分があった。

秋田の地において美術大学としての特色を探し出していく中で、新たなものを作ってもいいし、変えてもいいし、次の目標とするのもよい。

スタート時点では分からないが、運営しながら特色、方向を見つけてもらいたい。

委員長 指示待ちではなく、大学自身が自ら考えて、大学をこのようにしたいという計画を作るのが理想であると思う。目標の意味を理解したうえで、大学としてこういう風にしたいというのがよいと思う。



委員 中期計画はいつまでに作成しなければならないのか。

委員長 本来は4月1日までに市から目標が示されていて、法人も計画を立てているものだが、初年度で法人がまだできていないので、時期的なずれが出ると思われる。

事務局 4月すぐの段階で中期目標について大学側の意見をもらう。そのうえで、その後に評価委員会から意見をもらい、中期目標について6月議会の審議にかける。中期目標が議決された後に法人が中期計画を市に申請し評価委員会の意見を経て、7月頃に市が認可する。その後に法人から年度計画の届出が市にある。これは承認ではなくて、届出、公表という形で進んでいく。

委員長 手続きの部分で時期がずれるのはやむを得ないが、事前に議論して目標も計画もある程度形になっているので、現実的にはそれを基に大学が動いていくと理解していただきたい。

閉 会

次回開催 平成25年2月7日(木) 10:00~